

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102525		
法人名	株式会社PLUNURSE		
事業所名	グループホームCruto		
所在地	熊本県熊本市南区城南町東阿高一ノ尾1279-1		
自己評価作成日	令和6年 2月 6日	評価結果市町村報告日	令和6年 3月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 2月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

訪問看護が本部にあるため他事業所に比べると看護との連携、医療面は強く、医療依存が高い方、介護度が高いかたでも安心して暮らせるようにサポート体制が整っていること。また地域の医院との連携もとれており看取りの実績もある。地域の住民の方とのつながりも増え、音楽会や折り紙教室をして頂いたり、季節の行事を行ったりすることで、入居後も四季を感じながら楽しい生活が送れるように実施している。また、ご家族との関係も重視し、ライン等のSNSを通じて入居者様の写真をお送りし、遠方で面会が困難なご家族に対しても様子が分かるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より5年、その間の殆どがコロナ禍である中で、グループホームとしての支援や地域との関わり作り等に取り組まれてきました。現在は介護度・医療依存度が高い入居者も多く、生活の中では複数の職員による介護が必要な場面もあるようです。そのような中でも、野菜作りが好きな方は中庭で野菜作りを続けたり、季節行事やイベントを開催したり、趣味を楽しむ時間を作ったりと、生活を楽しむ取り組みがありました。職員面談では働きやすい環境であることも聞かれました。医療・看護面での連携があり、家族アンケートでも安心しておられる意見が見られました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームな環境を提供できるように笑顔で接し、入居者一人一人の対応を小さなことでもスタッフ間で共有を図り過ごしやすいよう工夫している。	医療・看護面でのサポートも厚い中でも地域と繋がりがり家庭的なケアを謳う理念を掲示している。介護計画作成・見直しの際や日頃のケアでは理念に基づく取組みを行っている。	介護度・医療依存度が高い入居者も多いことから他職種の職員がおられると思います。地域密着型サービスの意義や事業所の思い等を振り返り、地域・家族等への共有の機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、2回ほど地域の方々に施設内に慰問に来て頂いた。初詣は約半分の入居者が参加した。	開設後間もなくのコロナ禍により、積極的な外出や来訪での日常的な交流は難しい状況であった。今年度は近隣からの慰問の受入れもあり、事業所前を通る中学生の競歩会応援、近隣住民との会話等、少しずつつながりを見ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	InstagramやFacebook等のSNSを通じて事業所で行った行事等の発信を行っている。地域の小中学校の行事にも参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開き、報告や話し合いを実施。参加されなかったご家族等には資料を郵送し報告をしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議では地域及び地域包括支援センター、家族の参加もある。家族には参加の声掛けをしており、参加頂けない場合には郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的な報告は行っていないが、2カ月に1回の城南町のグループホーム連絡会議時には区役所の福祉担当者が来られるため、意見交換を実施している。	手続き等の報告・連絡・相談、2ヶ月に1回の運営推進会議への地域包括支援センターの参加、グループホーム連絡会議等での意見交換により取組みを伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしているが、スタッフは施錠の意味を理解して実施している。身体拘束を行っているが、毎週金曜日にカンファレンスを行い、必要性の確認はおこなっている。	3ヶ月に1回研修を行っており、今年度はスピーチロックを重点におき、接遇等にも取り組んだ。次年度はもっと深めるよう取組む予定である。身体拘束については、毎週職員間で意見を出し合い検討を重ね、本当に必要であるかを話し合っており、申し送りや経過記録で共有している。車椅子の方も時にはソファに移る時間を作る等工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回は身体拘束・虐待予防に関する勉強会を実施。今年度はスピーチロックに関することに重視し、スタッフの意識調査を数回実施した。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	熊本市や厚生労働省の資料をもとに、定期的に勉強会を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明後には不安や疑問点をお尋ねして承諾を得るように行っている。改定時は書面や電話連絡にて対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症が5類に変更になったため、マスクを使用するなど感染対策を講じたうえで直接の面会を再開した。また引き続きSNS(ライン)を利用し意見やご要望を聞く手段を設けている。	日頃より、入居者の生活の様子や身体状況等を細かに伝えることによる信頼関係の構築に努めている。遠方のご家族もおられるため、SNSも利用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的に週1回ミーティングを行い、意見や情報の共有を図っている。	毎週のミーティングにおいて意見・提案を表すことができ、伝達簿等を利用し共有している。職員体制は組織化しており、法人への職員の意見等は主任を通じて行っている。法人からの連絡等はSNSを積極的に利用している。	組織化が進み、SNS等も活用した情報共有がなされていました。ミーティングもよく行われていますが、勤務体制も多岐にわたることから、職員より直接意見を伝える場作りも働きやすい環境に繋がるのではないかと考えます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度も賞与2回支給。個々の今後の目標等を聞きながら長く勤めることができるよう情報収集を行い、働きやすい環境や条件の整備に引き続き努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市からの研修案内に参加できるよう勤務調整を行ったが実際は体調不良により参加できないこともあった。引き続き参加できるよう案内や勤務調整は行っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会議、通所連絡会議には定期的に参加して、勉強会や活動報告の共有を図り、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずヒアリングをし、趣味や生活歴を情報収集して、入居後も継続して行えるように検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のヒアリング時には本人様とご家族様に不安や要望等を必ずお尋ねしている。入居後も定期的にSNS(ライン)や電話を通じて連絡を行い関係づくり努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリング時に得た情報に優先順位をつけて対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状態を確認し、個々に合わせたケアの提供に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時は、ご家族の状況に応じて送迎や付き添いをお願いし、ともに支えていく関係であることを説明し、お願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	マスクを使用するなど感染対策を講じたうえで直接の面会を再開している。感染症の流行状況に応じてではあるが、外出も適宜許可している。また馴染みのある紫陽花見学や初詣を実施。	今年コロナ5類移行もあり、馴染みのある場所へ季節の花見へ出かけたり、近所の神社へ初詣に向いた。野菜作りがお好きだった方には家庭菜園等、折り紙や習字等、趣味を続けて頂く環境を作っている。定期的に折り紙講師も招いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の入居者の性格を把握し配慮した上で、食事の席を決定している。個々の関係性を把握した上で洗濯物畳みなどを協力し合える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	認知症状の悪化により入院となられた場合にも定期的に相談員へ状況確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で意思表示できる方には本人の希望、意向を確認し、意思表示できない方に関してはご家族に意向も参考にして検討をしている。	意思表示を表すことができる入居者の意向は日頃の会話や寄り添いで把握している。意思表示が難しい入居者については、家族に生活歴や以前のこと、好きなこと・物等を尋ね、ケアに活かしている。地域の移動スーパーの来訪時には思い思いに買い物を楽しむ姿もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	既存の入居者様は主にカルテやご家族から情報を得て。また新規の入居者様は本人様やご家族、ケアマネさんから情報提供して頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して個々のスタッフがお1人お1人の状態把握を行い、申し送りや伝達簿などを通じて情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族へは電話で連絡しご意向やご希望を確認。課題とケアについては職員にモニタリングをして介護計画を作成している。	経過記録等の確認、職員への聞き取りで介護計画を見直ししている。身体状況変化時には随時見直しを行っている。家族の意向も確認し、現状に即した介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週1回のミーティングや申し送り等で職員間の情報を共有。それを活かし計画や実践の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の体調の変化や認知面の悪化によりより対応の変化が生じても、柔軟な支援ができるよう心がけている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例大祭などの大きなイベント時は外部から団体を招いた。中庭の家庭菜園の苗の購入は、近所の販売店と一緒に買い求めた。近所のスーパーからくる移動販売の利用も行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	精神科や整形外科等、かかりつけ医がある場合は引き続き優先し受診している。内科医に関しては入居時にご家族と相談して決定し、適宜状態変化があった際は適切な医療が受けられるようにしている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現状は往診・通院共にあり、通院の場合は職員付き添い、家族付き添いによる通院がある。歯科からは毎週往診があり、治療だけでなく歯科衛生士からのケア指導もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも看護師へ情報提供している。訪問看護が介入している方へは訪問看護師にも情報提供を行い適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に入院先の相談員へ連絡し、情報収集に努めている。また必要に応じて入院先の病棟にヒアリングに伺うこともあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に必ず意思確認を取り、入居後も年1回は確認を行っている。適宜状態変化が予測される場合、又は変化があった場合はすぐに主治医やご家族へ連絡し方針を決定し、みんなで支援を行っている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針と対応を説明し、意思確認を得ている。本人・家族が希望される際には医師他関係機関と話し合いを重ねながら指示を受け、支援を行っている。看護師資格を持つ職員も勤務しているため、連携体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	既存の急変時のマニュアルをもとに、適宜応急処置の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での研修は実施しているが、地域との交流体制はできていない。	火災避難訓練を行っており、訓練後は反省・講評を行っている。事業所の立地はハザードマップ上は心配ない地域であるが、地域の避難所を確認し、状況に応じた検討も行っている。	火事だけでなく、近年の自然災害は予想を上回る例もみられます。職員勤務体制も多様であることから、全職員が参加できる訓練の工夫、また様々な想定での訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々配慮に欠けた言葉掛けをしている現場を目にすることがあるため、当事者にはその都度注意している。定期的にスピーチロックの勉強会を実施し、意識改善を図っている。	今年度はスピーチロック・接遇の研修を重ね、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に取組んだ。次年度も研修を継続し、学びを深める取組みを予定している。	グループホームでの生活では、入居者のペースに合わせた支援が重んじられています。記録する場所・時間についても入居者と着かず離れず等の支援の工夫を期待します。迅速な業務と入居者に寄り添った支援等について、認知症ケアのあり方を時々振り返ることで理念の共有にもつながるものと思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、本人の訴えを聞いて行動に移している。意思表示が困難な方には希望に添えているは不明ではある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側の都合で行動することもあるが、可能な限り本人のペース、希望に沿って支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定ができる方は、靴や洋服をご自分で選んでもらう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会や食思低下時、看取り時など、好きな食べ物を聞いて提供をしている。テーブル拭きや下膳ができる方は一緒に行っている。	事業所での手作りの食事を提供している。食欲低下が見られる際には希望を尋ねたり、嚥下状態の情報共有等、手作りならではの臨機応変な対応が可能である。行事食も提供し、事業所の畑で収穫した野菜も取入れ、季節感も感じる献立である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時の個々の状態に応じて食事や水分の提供量を考慮し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じた口腔ケア方法で実施している。歯科の往診ではアドバイスをもらったり情報共有も行っている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握した上で、オムツやパッドの使用方法や使い方の見直しは適宜行っている。	入居者それぞれの身体状況に合わせ、排泄パターンを把握して個々に支援している。毎週のミーティングではオムツ交換頻度等の共有や種類・方法等の検討も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のデザートやおやつ時にヨーグルトを提供したり、また確実に水分を摂取してもらえるよう、飲み物の内容を工夫したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、個々の体調や気分に沿って曜日を臨機応変にへんこうして対応している。	入居者のその日の体調や行事等配慮した上で3日に1回の入浴を支援している。介護度が高い入居者も多くみられるが、機械浴が設置されていることから浴槽の利用ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後などに椅子に座ったまま傾眠される方がいれば、ベッド臥床するなどして対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員がそれぞれ個々にどんな薬が処方されているのかを把握できていないが、看護師や各勤務帯のリーダーが主になって把握し服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや脳トレ、毎月の季節の行事を行い喜びや楽しみを提供できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行もあり、その日の気分に沿って気軽に戸外へ外出はできていない。紫陽花やコスモスの見学は実施。中庭は常に開放しており、適宜中庭の散歩は行っている。	この数年のコロナ禍により気軽な外出は難しい状況が続いているが、今年度は少人数ではあるが季節の花見等ドライブに出向いた。日常的に中庭や駐車場の散歩や庭仕事等、外気を感じる機会を作っている。	

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理は施設スタッフが行っているが、ご家族や本人の希望で2人程ご自身で管理している。移動販売が来られた場合は個々のレベルに合わせて支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をしたり手紙が書けるように準備したり支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように、毎月手作りのカレンダーを作成したり、季節の飾り物を配置したり工夫を行っている。	玄関を挟み両側に位置する各ユニットのリビングスペースでは、2ユニットの入居者が過ぎしている。現在は介護度の高い入居者も多く、安心・安全・安楽に配慮した支援を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の関係性を考慮しながら、適宜テーブルやソファの位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、自宅で使用していた家具や椅子を持ち込み、レイアウトを工夫し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼しており、家族の協力もみられる。移動等の安全にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物に、廊下や脱衣所、トイレは手すりが設置されており、自由に生活ができるよう工夫されている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所 グループホームCruto

作成日 令和 6年 3月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	・認知症ケアのあり方について、振り返る機会が少ない。 ・入居者と離れた場所で記録することが多い。	認知症ケアについて更に学習する機会を設け、理念の共有に繋げる。	①認知症の勉強会を実施し、日頃の接し方等を振り返る。 ②記録等、入居者の近くでもできる業務はなるべく傍で行う。	①2か月以内 ②すぐに実行
2	35	災害対策訓練が火災のみである。	地震等の訓練も実施する。	マニュアルに沿って訓練を実施し、必要に応じてマニュアルの修正も行う。	3か月以内
3	11	毎週ミーティングを行っているが参加者がその日の日勤者のみと限定的である。	より多くのスタッフが参加し、直接意見を伝える場を設け、より働きやすい環境を作る。	①月1回の全体ミーティングを開催する。勤務状況で参加できない場合は事前に話し合いたいことや意見を聞いておく。	1か月以内
4	1	地域との交流は進んでいるが、感染対策等の問題もあり行事に家族が参加できていない。	行事の日程を発信し、可能なご家族は感染対策を講じたうえで参加し、思い出を共有する。	①参加可能な行事の選定 ②発信方法の検討	1か月以内
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。